

Azure VPNGW でよくあるお問合せをまとめてご紹介いたします。

VPNGW 全般的な FAQ

メンテナンスの事前通知

VPNGW ではサービスを健全に運用するため定期的(月に 1, 2 回程度)のメンテナンスを実施いたします。

メンテナンスでは数十秒程度の通信断が発生することがございますが、メンテナンスの **事前通知は行っておりません**

事後にメンテナンス有無を確認する方法

メンテナンス実施時に診断ログにメンテナンス実行を示すイベントが記録されます。

ログを確認することで、過去に発生した IPsec セッションの断がメンテナンスによるものかを確認することが可能です。

複数種類のメンテナンスがあり、全メンテナンスでログが出力されるわけではございません。

ログ上、メンテナンスとして記録されていない、意図せぬ申告なサービス断が発生した場合には Azure サポートにて調査をいたしますので、ケースオープンをしてお問い合わせ下さい。

Site-to-Site に関する FAQ

Azure GW で静的パブリック IP アドレスを使う方法

かねてより VPNGW に静的パブリック IP アドレスを割り当てたいというご要望を頂いておりましたが対応しておりませんでした。

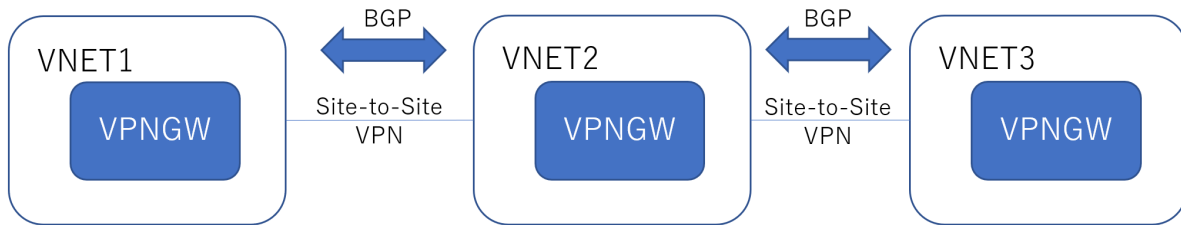
2020年9月現在でも、VpnGwX 等の通常の VPNGW SKU では静的 IP アドレスを使用することはできませんが、**ゾーン冗長 SKU VpnGwXAZ** を選択いただくことで実現が可能です。

VPNGW をトランジットした通信

VPNGW では Site-to-Site VPN 経由で接続された複数のサイト間の通信を行うことが可能です。

この場合、サイトと Azure 間の接続には必ず **BGP** が必要になります。

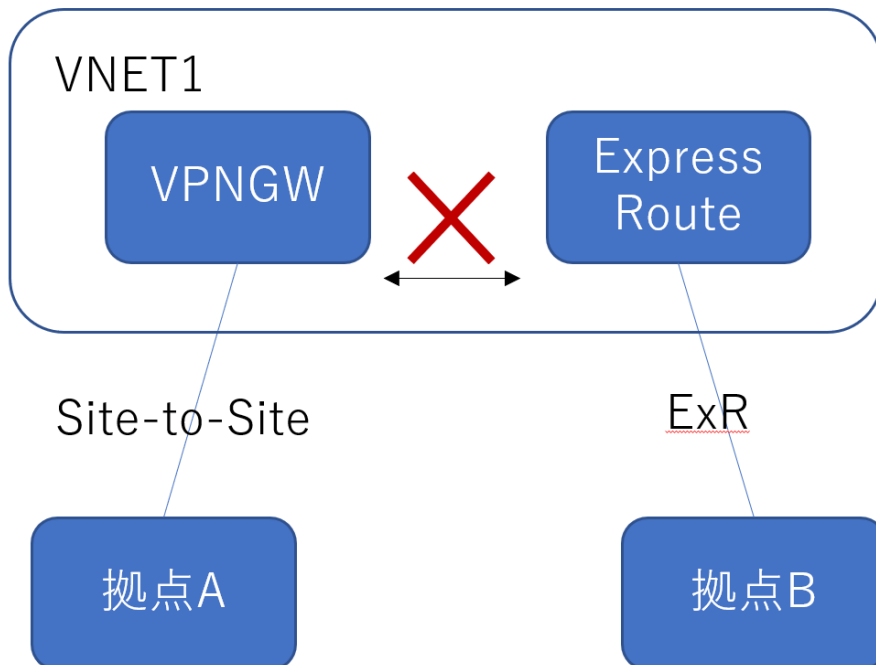
スタティック構成(BGP を使用しない構成)での VPNGW トランジット構成はサポートされませんのでご注意ください。



VPNGW, ExpressRoute 共存環境のデザイン

同一 VNET 内に ExpressRoute と VPNGW を配置することが可能です。

しかし、VPNGW Site-to-Site 接続で接続された拠点 A と ExpressRoute 接続された拠点 B 間は、Azure 経由で通信を行うことはできません (**共存環境でのトランジット通信はできません**)



Point-to-Site に関する FAQ

Azure VPN Client のインストール方法

Azure VPN Client をローカルファイルにダウンロードし、PC にインストールしたいというご相談をいただきますが、Azure VPN Client はユニバーサル Windows プラットフォームアプリケーションとして開発しているため、必ず **Microsoft Store からのインストールが必要** です。

VPN クライアントを使用する際の管理者権限

Windows クライアントの Point-To-Site 接続では、3種類の VPN VPN クライアント アプリケーションをサポートしております。各クライアントの使用にあたり以下のタイミングで管理者権限(admin)が必要となります。

admin 権限が必要な処理

クライアントの種類	クライアント app インストール時	VPN 接続時
Windows 標準の VPN クライアント (SSTP, IKE)	標準インストール	必要
OpenVPN クライアント(OpenVPN)	必要	不要
Azure VPN クライアント(OpenVPN)	不要	不要

VPN 接続する際に使用するユーザアカウントに管理者権限が付与できない場合、 OpenVPN クライアント、もしくは Azure VPN クライアントを使用することで問題を回避できることがあります。

P2S クライアントにおけるフルトンネル設定の可否

一般的に VPN クライアントが、全トラフィックを VPN 経由で行う設定をフルトンネル、一部トラフィックのみ VPN 経由で行う設定をスプリットトンネルと呼ばれておりますが、 Azure VPNGW 接続では **スプリットトンネルのみサポート** します。

もしフルトンネルで Azure VNET と接続する必要がある場合には、サードパーティ製の NVA をご使用下さい。

P2S 経由でのインターネット、 Azure PaaS サービスへのアクセス